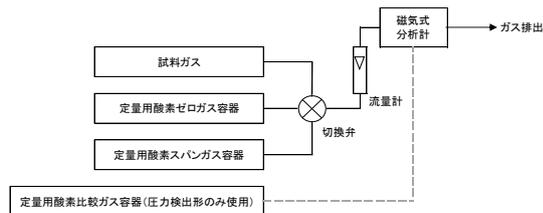


1 酸素

2 定量法の項を次のように改める。

3 定量法 磁気式分析法によるものとする。

4 (i) 装置 定量用酸素ゼロガス、定量用酸素スパンガスが、
5 試料ガス導入系統と切換え弁を介して個別に装置に導入され
6 る。磁気力方式圧力検出形の装置は上記ガスに加えて定量用
7 酸素比較ガスの導入系統も付随している。各ガスは、装置へ
8 の導入に当たって流量計、圧力計により装置で規定された流
9 量に制御して導入される。



10

11 (ii) 操作法 装置に定量用酸素ゼロガスを設定流量で導入
12 し、指示安定後、ゼロ調整を行う。次に定量用酸素スパンガ
13 スを設定流量で導入し、指示安定後、スパン調整を行う。調
14 整後の両指示値が当該装置の仕様の範囲内にあることを確認
15 し、装置の適切性を確認する。各校正ガスの導入を止め、試
16 料ガスを設定流量で導入し、指示 $V(\text{vol}\%)$ を読み取る。

17

$$\text{酸素の量}(\text{vol}\%) = V(\text{vol}\%)$$

18 なお、装置を定期的な校正により管理する場合は、当該装
19 置の製造業者の推奨、過去の管理記録、又は統計的手法によ
20 りその校正頻度を適切に定め、かつ当該装置の製造業者の推
21 奨する範囲に使用環境及び試料ガスの導入条件を維持する。

22

23 9.41 試薬・試液の項に次を追加する。

24 酸素ゼロガス、定量用 耐圧密封容器詰めのを窒素又はアルゴン
25 99.99 vol%以上のもの、あるいは測定を行う範囲の最小目
26 盛の酸素を含む耐圧密封容器詰めのを窒素又はアルゴン98 ~
27 99 vol%のもの。

28 酸素スパンガス、定量用 耐圧密封容器詰めのを酸素99.7 vol%
29 以上のもの。

30 酸素比較ガス、定量用 耐圧密封容器詰めのを酸素99.99 vol%
31 以上のもの。

32

33